



旧田中家住宅（川口市）

2014年9月 訪問
埼玉モダンたてもの学生レポーター
埼玉大学教養学部 島澤 陽平

川口で麦味噌の醸造や、材木商で財をなした、4代目田中徳兵衛が築いたもので、大正12年に完成した本格的洋風住宅です。お客様をお迎えする迎賓の建物でもありました。



日光御成道（国道122号）に面している洋館は、3階建てで、その大きさが目を引きます。その後ろには、昭和9年に増築した、数寄屋造りの和館があります。

平成18年には、国の登録有形文化財に登録されました。

※登録文化財は4件あります。
（洋館、和館、文庫蔵、表門及び煉瓦塀）



建物に入る前に、玄関の表札に注目してみましよう！

住所が、いまの川口市ではなく、「北足立郡南平柳村」となっています。

この建物の、長い歴史を感じることができます。



玄関を入ると、そこは商談などに使われた帳場があります。座敷部分の照明は和風です。一方、土間部分の照明は、洋風です。和と洋の区別が見られます。

当時使われていた金庫や、机などもあり、当時の光景が目に浮かんでくるようです。



天井を見てみると、何やら模様が…英語の「T」の文字のようなデザインのように思いませんか？もしかすると、田中家の頭文字をとったデザインなのかもしれません。

脇の壁に謎の機械が！これは、部屋から人を呼び出すためのベルだったようです。今でいうと、インターホンの役目をしたものでしょうか。



木の階段は、落ち着きを感じ、
どこか懐かしい雰囲気があります。

敷かれている赤いじゅうたんが、
上品さを引き立てています。



手すりの柱の上には、木の実を
かたどった装飾がついていて、
職人の細かなこだわりを感じる
ことができます。

階段の上に張り出している
不思議な場所を発見！

これは、のちに増築され
た部分とをつなぐ通路に
なっているそうです。



応接室は、眺望に配慮したといい、
建物の最上階である3階に設けら
れました。

当時は、芝川まで続いていた田中
家の敷地と、味噌や材木などの製
品を積みだす河岸が見渡せたそう
です。

遠くには、富士山も望めたとい
います。

現在は、周りに高い建物が建っ
てしまったために、当時のよう
な光景は見られません。

ですが、遠くに東京スカイツ
リーを望むことができます。
意外な発見です！



ここです！

上写真の、丸部分のアップ

くらべてみれば：洋館の天井と照明

洋館の1階応接室・2階書斎・3階控室は、各階の同じ位置にある同じ大きさの部屋ですが、天井と照明のデザインは様々！



1階 応接室



2階 書斎



3階 控室



洋館の2階には、和室が設けられています。
これは、和風の接客を行うためであるといえます。

入口のふすまは、廊下側と和室側で、作りを変えています。
洋風と和風を、きちんと区分けしていたことがうかがえます。



洋館と和館をつなぐ廊下などあちこちに、防火シャッターが設けられています。
火災の時、これを閉めて洋館を守るものであったといえます。

このシャッターは、手動で上げ下げをするしくみになっていて、隣の壁には、引き紐が備えられています。





和館にある広間の内部です。

この和館は、貴族院議員でもあった4代目徳兵衛が、政財界の人たちを和装で迎えるためにつくられたものです。天井が高く、開放感のあるつくりになっていて、日本庭園を望むことができます。

庭園も、緑が大変美しく、広間からの風景としてふさわしいものになっています。



廊下の明り取りの窓の枠に、松の装飾がされています。

便所前の手洗い場は広いスペースが取られていて、袴脱ぎがあわせて設けられています。



最後に、炊事場で扉を開けると、階段がありました。

この階段は、使用人が使っていた部屋へとつながっています。

※旧使用人部屋は非公開となっています。

建物全体を通して、贅を尽くした部分が多く、もてなしのための、細かな気配りを感じることができます。